

モーツァルトの演奏会用アリア I

森 久見子

Mozart's Concert Arias I

Kumiko MORI

緒 言

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart 1765-1791) の声楽曲の中より演奏会用アリアを研究課題としたのは、演奏体験もあり、長年興味を持っており、今後も演奏したいジャンルだからである。

今回は演奏会用アリアを概観し、モーツァルトの演奏会用アリアの作風について考察し、また現在のところ比較的新しいグローブの音楽辞典を参照してモーツァルトの演奏会用アリアの一覧表を作ることを研究内容とした。さらに作品例として、第2部で作品分析を行うアリア K505「どうしてあなたを忘れましょう！ 恐れることはない愛する人よ (Chio mi scordi dite! / Nontemer amato bene)」を含む後期 (ウィーンに定住後) の作品から8曲を選び略述することにした。

演奏会用アリアについて

演奏会用アリアはナポリ派によるソロ・カンタータが継承されたもの、あるいはイタリアオペラが母胎であるとも言われている。

ローズマリー・ヒューズ (Rosemary Hughes) は次のように述べている。ベル・カントの伝統的なフィオリトゥーラ (即興的装飾) がどんなに人工的に与えたものとしても、18世紀半ばにはまだ歌手が技術的な業を発揮できるような形式的で、見せ物的な作品が要求された。それ故にソロ・カンタータ——原則としてはまだ理想的だが、しかし実際問題としてはすでに時代おくれのもの——は演奏会用アリアによってその後を継がれたのである。それは伝統的なまた進歩的な好みの両方を満足させる妥協的なジャンルであり、モーツァルトの手によって芸術的な頂点に達せられたのである¹⁾。

演奏会用アリアは、ヨハン・アドルフ・ハッセ (Johann Adolf Hasse 1699-1783) や、ドメニコ・チマローゼ (Domenico Cimarosa 1749-1801) からも作曲していたと推定されるが、その作品例は残っていない。また多くの声楽曲を残している作曲家の作品目録を一覧するならば、フランツ・ヨーゼフ・ハイドン (Franz Joseph Haydn 1732-1809) に管弦楽伴奏の挿入アリアが23曲 (いずれも他の作曲家のオペラへの挿入曲)、ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (Ludwig van Beethoven 1770-1827) に管弦楽伴奏付き独唱曲が3曲、フェリックス・メンデルスゾーン (Felix Mendelssohn-Barthorpy) に演奏会用アリアが1曲あることが分るだろう。

演奏法について言えば、18世紀に成立したイタリアの一歌唱法であるベル・カントがこの時代の最も理想的な唱法とされていた。演奏会用アリアにおいても歌手は曲にフィオリトゥーラを加えて演奏するなど自分の技量を存分に披露することが可能であったし、またそのような華

麗な演奏のたのしみこそこの種のアリアの音楽的生命であった。

ベル・カント唱法

17世紀にヴェネツィアで生まれたベル・カント唱法は、18世紀には最高の唱法とされていた。17世紀から18世紀前半はイタリアを中心としたカストラートのベル・カントが全盛の時代であった。ファリネッリ（Farinelli 本名Carlo Broschi 1705-1782）は一世を風びしたカストラート歌手で、彼の師もまたカストラート歌手であり作曲家のニコラ・ポルポラ（Nicola Antonio Porpora 1705-1782）であった。17世紀後半より女性の歌手も頭角を現わしはじめ18世紀の始め頃まで華麗な技巧第一主義のベル・カントの一時代をつくった。その後カストラートは没落の途をたどることになる。

18世紀半ばにジャッキノ・ロッシーニ（Giacchino Antonio Rossini 1792-1868）が新しいベル・カント唱法を誕生させた。彼はベル・カント唱法の存続を強く望んでいた。それまでの技巧中心のものから抒情的な表現をもつベル・カントになり、またひとつの隆盛時代となった。作曲家としてはヴィンチェンツォ・ベッリーニ（Vincenzo Bellini 1801-1835）や、ガエタノ・ドニゼッティ（Gaetano Donizetti 1797-1848）が活躍した時代である。歌手は有名なガルシア一族であるアルトのマリア・マリブラン（Maria Felicità Malibran 1808-1836）、メッツォ・ソプラノのポーリーヌ・ヴィアルドゥ（Pauline Viardot 1821-1910）、ソプラノのジュウディッタ・パスタ（Giuditta Pasta 1798-1865）などの有能な女性歌手がカストラートによって高められたベル・カント唱法を継承して、そのメリスマ的歌唱のなかにリリックな、またドラマティックな情感を導入することにより美しい調和のある新しいベル・カント唱法を後世に引き渡した。

マチルデ・マルケージ（Mathilde Marchesi 1821-1913）はマヌエル・ガルシアⅡ世（Manuel Patricio Rodrigues 1805-1906）からベル・カント唱法の極意を受け継ぎ、トレーニング用の教則本を出した。そのトレーニングを基にしてドラマティックな世界を求める歌手や、リリックな方向へ進む歌手が生まれた。

モーツァルトの演奏会用アリア

現存する最初の演奏会用アリアは1765年9才の時の作品アリア K19c 「行け、怒りにもえて（Va, dal furor portata）」で、彼が没した1791年に書かれたアリア K621 「私はあなたに別れを告げます。おお、いとしい人よ。さようなら（Io ti lascio o addio）」が最後の作品である。したがってモーツァルトは生涯を通じて演奏会用アリアを作曲したといえる。

演奏会用アリアにはパステイッチョ（何人かの作曲家のアリアで構成されるオペラ）のアリア、オペラの一部に挿入されたアリア、差しかえられたアリア、リチェンツァ（祝典用）などが含まれている。ほとんどの作品が特定の歌手のために書かれたもので、モーツァルトは演奏する歌手に相応しく歌手の特技や声域を考慮し、歌手が技量を充分に発揮できるように配慮した。それゆえ音楽的に必ずしも彼が望んでいたような完全な作品にならなかった場合も当然考えられる。

演奏会用アリアは基本的にはオペラのレチタティーヴォとアリアの一組を取る。アリアに関して言えばモーツァルトも初期においては当時のダ・カーポ・アリアの形式に厳密に従っていた。例えばアリア K217 「あなたは誠実な心の持主（Voi avete un cor fedele）」のように反復する形式、A-B-A'-B'-A"-Cの構造などであるが、しばしばアリアは2つの対照的な部分に括

張し、次第に彼の成熟したスタイルになっていった。このように伝統的な形式を独特とも言える自由な処理をしている作品には常に使用されている形式的なパターンはないが、それらはテキストの内容と、劇的なシチュエーションの必然性に由来している。アリア K272「あゝ予感がしていた (Ah, lo preridi)」の最初のアリア「あゝあなたはもう見たくない (Ah, tinrola agl'occhi)」がソナタ型、2番目のアリア「あゝ最愛の魂よ、いかないで (Deh non rarcar que ll'onda)」がロンド型であることはモーツァルトのテキスト解釈の最も見事な一例であろう²⁾。

1770年ミラノで本格的なオペラ K74 a「ポントの王ミトリダーテ (Mitridate Rè di Ponto)」が初演された後数年間は演奏会用アリアを書いていない。しかしオペラは着実に作曲されていた。モーツァルトにとって演奏会用アリアは本格的なオペラ創作のための習作であるという見解もあるが、オペラ創作の経験とともに演奏会用アリアも次第に広がりのある完熟したものになった。

1775年より再び演奏会用アリアを書くようになった。その年にたて続けに書かれた3曲のブッフア・アリア K209「運命は味方する (Si mostra la sorte propiza)」, K210「平身低頭敬意をこめて (Con ossequio, con rispetto)」, K217「あなたは誠実な心の持主 (Voi avete uncor fedele)」は、それまでになかった新しい音楽的傾向を示している。

後期の作品には優れたものが多く、特にアリア K505とアリア K528「さらば、いとしいものよ。とどまれ、わが愛人よ (Bella mia fiamma, addio/Resta, oh cara)」は最高傑作とされている。またアリア K316「テッサの民よ、私は求めない永遠の神々よ (Populi di Tessaglia/ Io non chiedo, eterni Dei)」, アリア K538「空の星よ、情けあそば (Ah se in diel, benigne stelle)」も高い評価を得ている。ここで後期のソプラノのためのアリア8曲について略述しておく。

K416「わが熱愛の希望よ！あゝ君にはこの苦しみがわかるまい (Mia speranza adorata! / Ah, non sai qual pena sia)」

レチタティーヴォとアリア (アンダンテ・ソステヌート 変口長調 A-B-A'-C-A'-C')

パスクワーレ・アンフォッシ (Pasquale Anfossi 1727-1797) のオペラ「ツェミーラ (Zemira)」の第2幕第5場のテキストを使用している。台本はアバット・セルトール (Abbate Sertor 生・没不明) である。1783年1月8日に作曲。義姉であるアロイジア・ウエーバー (Aloisia Weber 後にランゲ夫人となる 1760-1830) に捧げられた。彼女の能力が充分発揮されるように派手で高度な技巧を必要とするコロラチュラを駆使した作品である。

K418「あなたに明かしたい。おゝ神よ (Vorrei spiegarvi, oh Dio)」

アリア (第1部 アダージョ イ長調 A-A'-B-C-A"-B' 第2部 アレグロ イ長調 D-E-D'-Coda)

アンフォッシのオペラ「あつかましい好奇 (Il curioso indiscreto)」の第1幕第6場への挿入曲である。テキストの作者は不明である。1783年6月20日作曲。アロイジアのためのもので最高音は3点ホに達する。

K419「いえ、いえ、あなたには無理なこと (No, no, che non sei capace)」

アリア (第1部 アレグロ ハ長調 A-B-C 第2部 アレグロ・アッサイ ハ長調 D-E)

1783年6月の作品。アリア K418と同じオペラへの挿入曲で、この曲もアロイジアに捧げら

れた。彼女の声に合わせた技巧的なコロラチュラで、アリア K418と同様に最高音は3点ホを使っている。

K528 「さらば、いとしいものよ。とどまれ わが愛人よ」

レチタティーヴォとアリア（第1部 アンダンテ ハ長調 A-B-A'-B'-coda 第2部 アレグロ ハ長調 C-D-E-D'-E'-coda）

1787年11月3日作曲。後期の作品の中でこの曲だけがプラハで作曲されている。この年の10月28日にオペラ「ドン・ジョヴァンニ (Don Giovanni)」をプラハで完成し、29日に初演された直後の作品のためである。テキストはニコロ・ヨンメリ (Niccolo Jommelli 1714-1774) のオペラ「なだめられたチェレーレ (Cererè placato)」の第2幕第2場からとられている。ヨゼファ・ドゥシュク (Josepha Duscek 生・没不明) に熱望されて作曲したと言われている。

K538 「空の星よ。情けあらば」

アリア (アレグロ ヘ長調 A-B-A')

1783年3月4日作曲。テキストはピエトロ・メタスタージオ (Pietro Metastasio 1698-1782) の「シナの英雄 (L'eroe cinese)」の第1幕第2場のものである。この曲はアロイジアのために書かれた最後の曲である。華やかなコロラチュラの技巧を駆使しており、曲想の表現より声の器楽的な技巧を要求される曲である。

K578 「尊大な魂と気高い心は (Alma grande e nobile core)」

アリア (アレグロ 変口長調 A-A'-B-A''-C-A'''-D)

1789年8月作曲。ドメニコ・チマローザのオペラ「ロッカ・アッズラの二人の男 (I due baroni di Rocca Azzura)」の第1幕第8場への挿入曲でテキストはジュゼッペ・パロンバ (Giuseppe Palomba 生・没不明) のものである。ルイズ・ヴィルヌーヴ (Louise Villeneuve 生・没不明) に捧げられた。彼女はモーツァルトのオペラ「フィガロの結婚 (Le nozze di Figaro)」のスザンナ、「コシ・ファン・トゥッテ (Così fan tutte)」初演時のフィオルディリージを演じた。

K582 「誰が知ろう。何か (Chi sa, chi sa, qual sia)」

アリア (アンダンテ ハ長調 A-B-A'-C)

1789年10月作曲。マルティン・イ・ソレル (Martin y Soler 生・没不明) のオペラ「情深い武骨男 (Il burbero di buon core)」の第1幕第4場への挿入曲で、テキストはロレンツォ・ダ・ポンテ (Lorenzo da Ponte 1749-1838) のものである。ヴィルヌーヴのために書かれた曲である。

K583 「私は行く。だがどこへ? (Vado ma dove?)」

アリア (第1部 アレグロ 変ホ長調 A 第2部 アンダンテ・ソステヌート 変ホ長調 B-C)

1789年10月作曲。アリアK582と同じオペラの第2幕第5場への挿入曲である。またアリアK582と同様ヴィルヌーヴに捧げられた曲である。

モーツァルトの演奏会用アリア一覧表の作成

グローブ音楽辞典を基にして59曲を一覧表にした。楽譜は19世紀末のブライトコップ・ウン
ト・ヘルテルの旧全集に47曲，戦後のベーレンライターの新全集に52曲が集録されている。一
覧表にした59曲のうちベーレンライターの新全集で42曲のスコアを見ることができた。6（こ
の項では作品を一覧表左端の番号で記す。）はケッヘル番号が無番号の曲としてこの新全集で
初めて発表された作品である。以下各項目について簡単な説明を加えておく。

1 作曲年代と作曲地

モーツァルトは先に述べた1771～1775年の空白を除き死に至るまで演奏会用アリアを作曲し
ていた。最初の作品となっているのは1であるが，その頃ロンドンやバークで10数曲が作曲さ
れたとも言われている。しかし現存しているものがなく結局1が最初の作品となっている。

作曲された場所については，初期の作品のうち11曲がザルツブルグ，1781年以降は29曲がウ
ィーンで作曲されている。子供の頃よりひん繁に各地へ旅行をしていたが，ザルツブルグは彼
の生まれた所であり，生活の本拠地であった。1780年末よりザルツブルグの大司教宮廷に仕え
る身分を離れウィーンに腰をすえ独自の音楽の道を開こうとした。このような事情からザルツ
ブルグとウィーンでの作品が多いのは当然のことである。ミュンヘンで4曲，マンハイムとミ
ラノで3曲，ローマとプラハで2曲，ロンドンで1曲が作曲されている。14はミラノかパヴィ
アかはっきりしていない。25については不明である。

2 作詞者

メタスタージオの作が一番多く11曲である。そのうち21と42は同一の詞である。次いでダ
・ポンテのものが8曲。しかし49についてはフィリップポ・リヴィーニ（Filippo Livini 生・没
不明）の作ではないかという説があり，55と56の2曲に関しては明確でない。言葉は26，30，
33，46，50，54の7曲がドイツ語で，その他はイタリア語である。以下判明している作者と番
号を記しておく。

ピエトロ・メタスタージオ：1，2，5，7，8，9，10，11，12，13，14，21，23，27，
28，38，42，45，

ロレンツォ・ダ・ポンテ：47，48，49，51，53，55，56，57

ジョヴァンニ・デ・カメラ（Giovanni de Gamera 1743-1803）：18，29

カルロ・ゴルドーニ（Carlo Goldoni 1707-1793）：17

ヴィットリオ・チナ・サンティ（Vittorio Cigna Santi 生・没不明）：20

ラニエリ・デ・カルツァビジ（Ranieri de Calzabigi 1714-1795）：24

アバッテ・セルトール：32

サンティ・モルビリ大公（Duca Santi Angioli-Morbili 生・没不明）：43

ミケーレ・サルコーネ：44

ヨハン・W・L・グライム（Johann Wilhelm Ludwig Gleim 1719-1803）：46

ジュゼッペ・パロンバ：52

3 音楽形式

レチタティーヴォ付きのアリア21曲，すべてレチタティーヴォ・アコンパニャートの形を取

表 モーツァルトの演奏会用アリア

	KöchI	作曲年代	作曲場所	作 詞 者	音楽形式	編 成	備 考
1	19c(21)	1765	ロンドン	メタスタージオ	D・C	T, 2ob, 2fg, 2hn, str	「エツィオ」パスティッチョ チブランディ
2	23	1765・10	ハーグ	メタスタージオ	D・C	S, str	「アルタセルタ」
3	33i(36)	1766・12	ザルツブルグ	不明	R D・C	T, 2ob, 2fg, 2hn, 2trpt, timp, str	リチェンツァ シュラッテンバッハ
4	61c(70)	1766・12	ザルツブルグ	不明	R D・C	S, 2ob, 2hn, str	リチェンツァ シュラッテンバッハ
5	73b(78)	1766	不明	メタスタージオ	A	S, 2ob, 2hn, str	「アルタセルタ」
6	—	1769	ザルツブルグ	不明	A	S, 2ob, Vn, Va, b	
7	71	1769末~1770始	ザルツブルグ	メタスタージオ	A	T, 2ob, 2hn, str	「デモフォンテ」断片
8	73A(A ₂)	1770・1・26	ミラノ	メタスタージオ	A	S, 2hn, Vn, continuo	散失
9	73C(88)	1770・2・3	ミラノ	メタスタージオ	半D・C	S, 2ob, 2hn, 2trpt, str	「アルタセルタ」
10	73d(79)	1766	ミラノ ?	メタスタージオ	R シェーナ	S, 2ob, 2fg, 2hn, str	「アルタセルタ」
11	73e(77)	1770・3	ミラノ	メタスタージオ	R D・C	S, 2ob, 2fg, 2hn, str	「デモフォンテ」
12	73o(82)	1770・4・25	ローマ	メタスタージオ	半D・C	S, 2fl, 2fg, str	「デモフォンテ」
13	73p(83)	1770・4・5	ローマ	メタスタージオ	D・C	S, 2ob, 2hn, str	「デモフォンテ」
14	74b(74)	1771始	ミラノまたは ヴェネチア	メタスタージオ	半D・C	S, 2ob, 2hn, str	「デモフォンテ」
15	209	1775・5・19	ザルツブルグ	不明	BA	T, 2fl, 2hn, str	挿入
16	210	1775・5	ザルツブルグ	不明	BA	T, 2ob, 2hn, str	挿入
17	217	1775・10・26	ザルツブルグ	ゴルドーニ	BA ロンド	S, 2ob, 2hn, str	「ドリーナの結婚」へ挿入
18	225	1776・9	ザルツブルグ	ガッメラ	R ロンド	A, 2ob, 2hn, str	「アルサーチェ」フォルティエニ
19	256	1776・9	ザルツブルグ	不明	BA	T, 2ob, 2hn, str	「運のよいかげごと師」バルミーニ
20	272	1777・8	ザルツブルグ	チナサンティ	R A	S, 2ob, 2hn, str	「アンドロメダ」ドウシエク
21	294	1778・2・24	マンハイム	メタスタージオ	R A	S, 2fl, 2cl, 2fg, 2hn, str	「オリンピアード」アロイジア
22	295	1778・2・27	マンハイム	サルヴィ ?	A	T, 2fl, 2ob, 2fg, 2hn, str	「アルタセルタ」ラーフ
23	295a(486a)	1778・2・27	マンハイム	メタスタージオ	R A	S, 2fl, 2fg, 2hn, str	「見捨てられたデイドーネ」D・ヴェントリング
24	300b(316)	1779・1・8	ミュンヘン	カルツァビージ	R シェーナ	S, ob(solo), fg(solo), 2hn, str	「アルチェストラ」アロイジア
25	315b(A3)	1778・8	ゲルマニア	不明	シェーナ	S, ob, 2cl, 3hn, pf(solo), str	散失
26	365a(Alla)	1780・11	ミュンヘン	ゴッツィ D	R A	S,	散失
27	368	1779~1780	ザルツブルグ	メタスタージオ	R A	S, 2fl, 2fg, 2hn, str	「デモフォンテ」E・ヴェントリング
28	369	1781・3・8	ミュンヘン	メタスタージオ	R シェーナ	S, 2fl, 2hn, str	「エツィオ」パウムガルテン
29	374	1781・4	ウィーン	ガッメラ	R ロンド	S, 2ob, 2hn, str	「蒙古のシスマノ」チェッカレリ
30	382h(119)	1782 ?	ウィーン ?	不明 D	A	S, 2ob, 2hn, str	
31	383	1782・4・10	ウィーン	不明 D	A	S, fl(solo), ob(solo), fg(solo), str	アロイジア
32	416	1783・1・8	ウィーン	セルトール	R ロンド	S, 2ob, 2fg, 2hn, str	「ツェミーラ」アロイジア
33	416b(435)	1783	ウィーン ?	不明 D	A	T, fl, cl, 2fg, 2hn, 2trpt, timp, str	
34	417e(178)	1783・6	ウィーン ?	不明	A	S,	「あつかましい好奇」へ挿入 スケッチ
35	418	1783・6・20	ウィーン	不明	A	S, 2ob, 2fg, 2hn, str	「あつかましい好奇」への挿入アロイジア
36	419	1783・6	ウィーン	不明	A	S, 2ob, 2hn, 2trpt, str	「あつかましい好奇」への挿入アロイジア
37	420	1783・6・21	ウィーン	不明	ロンド	T, 2cl, 2fg, 2hn, str	「あつかましい好奇」への挿入アダムベルガー
38	421a(432)	1783	ウィーン ?	メタスタージオ	R A	B, 2fl, 2ob, 2fg, 2hn, str	「テミストクレ」パスティッチョ フィッシャー
39	425b(431)	1783・12	ウィーン ?	不明	R A	T, 2fl, 2fg, 2hn, str	アダムベルガー
40	490	1786・3・10	ウィーン	不明	R ロンド	T, 2cl, 2fg, 2hn, Vn(solo), str	「クレタの王イドメネオ」の差し替え
41	505	1786・12・26	ウィーン	不明	R ロンド	S, 2cl, 2fg, 2hn, Pf(solo)	
42	512	1787・3・19	ウィーン	メタスタージオ	R A	B, fl, 2ob, 2fg, 2hn, str	「オリンピアード」フィッシャー
43	513	1787・3・23	ウィーン	モルビッリ公爵	A	B, fl, 2cl, 2fg, 2hn, str	「ダリウスの敗北」フォン・ジャヤカン
44	528	1787・11・3	プラハ	サルコーネ	R A	S, fl, 2ob, 2fg, 2hn, str	「なだめられたチェレーレ」ドウシエク
45	538	1788・3・4	ウィーン	メタスタージオ	A	S, 2ob, 2fg, 2hn, str	「シナの英雄」アロイジア
46	539	1788・3・5	ウィーン	グライム D	有節歌曲	B, pic, 2ob, 2fg, 2hn, str	ドイツ軍歌 パウマン
47	540a	1788・4・24	ウィーン	ダ・ポンテ	A	T, fl, 2ob, 2fg, 2hn, str	
48	540c	1788・4・30	ウィーン	ダ・ポンテ	R A	S, fl, 2ob, 2fg, 2hn, str	
49	541	1788・8・5	ウィーン	ダ・ポンテ ?	アリエッタ	B, fl, 2ob, 2fg, 2hn, str	「幸福なやきもち」へ挿入 アルベルタレリ
50	569	1789・1	ウィーン	不明 D	A	S, 2ob, 2fg, 2hn, str	散失
51	577	1789・7	ウィーン	ダ・ポンテ	ロンド	S, 2basset hn, 2fg, 2hn, str	「フィガロの結婚」の差し替え デル・ペーネ
52	578	1789・8	ウィーン	パロンバ	A	S, 2ob, 2fg, 2hn, str	「ロッカ・アズラの二人の男」へ挿入 ヴィルヌーヴ
53	579	1789・8	ウィーン	ダ・ポンテ	アリエッタ	S, fl, ob, fg, 2hn, str	「フィガロの結婚」へ挿入 デル・ペーネ
54	580	1789・9・17	ウィーン	不明 D	A	S, 2cl, 2fg, 2hn, str	「セビリアの理髪師」へ挿入 スケッチ ホーファー
55	582	1789・10	ウィーン	ダ・ポンテ ?	A	S, 2cl, 2fg, 2hn, str	「情深い武骨男」へ挿入 ヴィルヌーヴ
56	583	1789・10	ウィーン	ダ・ポンテ ?	A	S, 2cl, 2fg, 2hn, str	「情深い武骨男」へ挿入 ヴィルヌーヴ
57	584	1789・12	ウィーン	ダ・ポンテ	A	B, 2ob, 2fg, 2trpt, 2timp, str	「コシ・ファン・トゥッチ」
58	612	1791・3・8	ウィーン	不明	A	B, 2ob, 2fg, 2hn, cb(solo), str	ゲール
59	612a(A245)	1791・9	プラハ	不明	アリエッタ	B, str	

略語 Köchl : A—追補, ()内は旧番号

作 詞 者 : D—ドイツ語

音楽形式 : R—レチタティヴォ, A—アリア, D・C—ダ・カーポ・アリア, BA—ブッフファアリア, ロンド—ロンド形式のアリア

編 成 : S—ソプラノ, A—アルト, T—テノール, B—バス, fl—フルート, cl—クラリネット, ob—オーボエ, fg—ファゴット, hn—ホルン, pic—ピッコロ, trpt—トランペット, timp—ティンパニー, Vn—ヴァイオリン, Va—ヴィオラ, cb—コントラバス, pf—ピアノ, str—弦楽器群, (solo)—オブリガート楽器

っている。アリアは初期の作品ではダ・カーポ・アリア、あるいは半ダ・カーポ・アリアが見られるが、1775年以降はロンドン形式がとって替り、ダ・カーポ・アリアはまったく見られなくなった。

4 声域

59曲のうちソプラノのための曲が圧倒的に多く38曲ある。アルトは1曲、テノールは12曲、バスは8曲である。40についてはソプラノに分類されている場合もあるが、今回作成した一覧表にはテノールに入れた。理由としては、元来カストラートが歌っていた曲であるが、カストラートの無い現在ではテノールが歌うものと考えたからである。以下曲を捧げられた歌手と番号を列挙する。

アロイジア、ウェーバー：21, 24, 31, 32, 35, 36, 45

ルイズ・ヴィルヌーヴ：52, 55, 56

ヨゼファ：ドゥシェク：20, 44

ヴァレンティーン・アダムベルガー (Valentin Adamberger 1743-1803)：37, 39

カール・ルードヴィヒ・フィッシャー (Karl Ludwig Fischer 1745-1825)：38, 42

フェラレーゼ・デル・ベーネ (Adrian Ferarese del Bene 生・没不明)：51, 53

エルコーレ・チブランディ (Ercole Ciprandi 生・没不明)：1

フランチェスコ・フォルティーニ (Francesco Fortini 生・没不明)：18

アントニオ・パルミーニ (Antonio Palmi 生・没不明)：19

アントン・ラーフ (Anton Raff 1714-1797)：22

ドロテア・ヴェントリング (Dorothea Wendling 1736-1811)：23

エリザベート・ヴェントリング (Elisabeth Wendling 1746-1786)：27

ヨゼファ・パウムガルテン (Josepha Paumgarten 生・没不明)：28

フランチェスコ・チェッカレリ (Francesco Ceccarelli 生・没不明)：29

ナンシー・ストラッチェ (Nancy Strace 1766-1817)：41

ゴットフリート・フォン・ジャカン (Gottfried von Jaquin 1763-1792)：43

フリードリヒ・バウマン (Friedrich Baumann 生・没不明)：46

フランチェスコ・アルベルタレリ (Francesco Albeltarelli 生・没不明)：49

ヨゼファ・ホーファー (Josepha Hofer 1758-1819)：54

フランツ・ゲール (Franz Görl 1764-1829)：58

5 伴奏楽器の編成

弦楽器群にオーボエ、ファゴット、ホルン、フルート、クラリネットが使われている曲が多い。トランペットとティンパニが入っているのは3, 33, 36, 57の4曲。46にピッコロ、51にバセット・ホルンが使われている。オブリガートの楽器を伴うものが6曲。24はオーボエ、51と41はピアノ、31はフルート、オーボエ、ファゴット、40はヴァイオリン、58はコントラバスがそれぞれ使用されている。6にはコンティヌオ（チェンバロとコントラバス）が加えられている。26と34については不明である。

6 アリアの種類

パステイッチョ1曲、リツェンシァ2曲、挿入のアリア13曲、差し替えのアリア2曲、いづ

れにも分類し難いもの5曲、その他は最初から演奏会用に作曲された作品である。

1は「エツイオ (Ezio)」がパステイッチョとして上演され、その再演時のために書かれた曲である。

2曲のリツェンツァはシェラッテンバッハ大司教 (Sigismund von Schlattenbach 1698-1771) に献呈された。3は大司教の叙階式記念日の祝典のため、4は大司教の誕生日を祝って作曲された。

挿入されたオペラについては、バルダッサレ・ガルッピ (Baldassare Galuppi 1706-1785) の「ドリーナの結婚 (Le nozze di Dorina)」へ17、アンフォッシの「あつかましい好奇」へ34, 35, 36, 37, 同じくアンフォッシの「幸福なやきもち (Le gelosie fortunate)」へ49, チマローザの「ロッカ・アズラの二人の男」へ52, モーツァルトの「フィガロの結婚」へ53, ジョヴァンニ・パイジェッロ (Giovanni Paisiello 1740-1816) の「セビリヤの理髪師 (Il barbiere di Siviglia)」へ54, ソレールの「情深い武骨男」へ55, 56である。15と16はどのオペラへの挿入であるか不明である。

差し替えの aria は2曲ともモーツァルトのオペラに使われた。40は「クレタの王イドメネオ (Idomeneo Re di Creta)」の第2幕第1場のアルバーチェの aria の代わりにイダマンテが歌い、51は「フィガロの結婚」の第4幕のスザンナの aria (第27曲) の代わりに伯爵夫人が歌ったものである。

はっきり分類できない曲について、19は差し替えか挿入であるか、38はパステイッチョか挿入か明らかでなく、30は不明な点が多く定説のない作品である。31はアロイジアのために作曲されたことは分っているが、はっきりとした目的は明らかでない。しかし何かの演奏会で歌われたものと推定される。57は特殊なケースである。この曲はオペラ「コシ・ファン・トゥッテ」の中のグリエルモの aria として書かれたのであるが、モーツァルトの意にそわず現在歌われている aria に替った。そして旧全集では aria 集に収録されているが、新全集の aria 集には入っていない。

結 語

今回の研究で得た演奏会用 aria の発達と当時流行していた作風などについての知識は、今後モーツァルトの作品を選曲し演奏するうえでさまざまな良き裏づけと示唆とを与えることであらう。

演奏会用 aria がモーツァルトの音楽の独特な一領域であることは否めないが、今回他の作曲家の作品にも目を向けてみたことは視野を広げるうえで有意義であった。

注

- 1) Hughes, R.: "Solo Song by R. Hughes", *The Mozart Companion*, 361, Faber and Faber (1968)
- 2) *Loc. cit.*

文 献

- 1) Sadie, S.: *The New Grove Dictionary of Musici and Musicans*, Macmillan (1980)
- 2) Wellesy, E. and F. Sternfeld: *The New Oxford History of Music 7*, Oxford University Press (1973)
- 3) 属 啓成: モーツァルト2声楽篇, 音楽之友社 (1982)
- 4) 福原信夫: ベルカントの系譜の断片, 名古屋国際音楽祭プログラム (1978)

- 5) 標準音樂辭典, 音樂之友社 (1966)
- 6) Neue Mozarts Ausgabe Arien band I, Bärenreiter Kaffel (1967)
- 7) Neue Mozarts Ausgabe Arien band II, Bärenreiter Kaffel (1968)
- 8) Neue Mozarts Ausgabe Arien band III, Bärenreiter Kaffel (1971)
- 9) Neue Mozarts Ausgabe Arien band IV, Bärenreiter Kaffel (1972)